

人文学部 国際コミュニティー学科

氏名：張 昇勲（ちゃん すんぶん）

国籍：韓国



## 日韓の懸け橋に

みなさん、こんにちは。それでは、「日韓の懸け橋に」について発表させていただきたいと思います。みなさんも自分が「これになりたい、あれになりたい」という夢があると思います。私は日本と韓国を繋ぐ仕事がしたいです。その夢を叶えるためには普通の日本語だけではなく、より専門的な知識や日本の文化までも深く理解しなければいけないと思っています。

そのきっかけは、高校の時でした。私が高校に通っているとき、先生から「チャン君、うちの高校はね、普通の学校と少し違って中国語か日本語のどちらかを選択して勉強しなければいけないんだよ。何語にする？」と聞かれました。そのとき、私は思いました。頭ではもう英語でいっばいなのですが、また第二外国語として中国語か日本語を勉強しなければいけないなんて。それで、私は中国語なら漢字がいっぱいですが、日本語は韓国語と語順も発音も似ているから、日本語にしよう！と思い、先生に「先生、日本語にします」と言いました。それが今の夢に近づくきっかけになりました。最初日本語を勉強する時には、とても楽しかったのです。「すみません」や「おはようございます」、「こんにちは」など。それで、先生に「あの、先生。これは何ですか？」、「これを教えてください」と積極的に質問したのですが、次の次のページに行く度に、漢字が中国語のように見えてきて、もうやめようかなあと思いました。しかし、せっかく勉強したのに、ここで辞めてしまうと今まで勉強したのがもったいないなあと思い、勉強し続けました。すると、いつのまにか、日本と韓国の間で国際的な通訳をしたいという夢が強くなり、日本で普通の日本語だけではなく、日本の文化までも勉強しようと思い日本に留学することになりました。

最初、日本に来たとき、周りは優しい人ばかりで、私が日本語を間違っても、「あ、チャンさん。日本語お上手ですね」、「ありがとうございます」。あるいは、「あ、チャンさん。それはこうですよ。何かあったら、また言ってくださいね」、「ありがとうございます」。本当に優しい人達ばかりだったのですが、ある日、道を歩いていると分からない道に出たので、自信を持って歩いている人に声をかけました。「あの、すみません」と。そして、私が質問をして向こうの人は説明をきちんとしてくれるのかとっていると、そうではありませんでした。向こうから返ってきた返事は、「あ、すみません。私英語できません」でした。その時、私は決心しました。私は、ここで普通の留学生と違って自信を持っていた私の日本語が、二度と英語に聞かれないようにもっと頑張らなければいけないと。

それで、学校の外では、先生の推薦をいただき、日本の交流会に参加し、通訳や翻訳をしながら専門的な日本語と専門知識を勉強することができました。また、学校内では、「献血ボランティア」という活動に参加し、貧しい国の子供たちがワクチンが打てるようにペットボトルのキャップの回収を手伝ってあげたり、血が必要な人に対しては、部員と一緒に呼びかけをして力になってあげたりしました。これらの体験を通して、私はいつのまにか国際的な視野をより広げられるようになりました。

このような経験から、私はこれからも高知大学で学んだことを活かして卒業後、日韓の親善関係はもちろん、2020年にある東京オリンピックの際にも国際的な懸け橋になる仕事に就けるように頑張りたいです。普通の勉強だけではなく、自分が通訳した分野に関してきちんと勉強して専門知識も学び、これからも私の夢である「日韓の懸け橋」という目標を抱いて前進していきたいと思っています。

これで発表を終わらせていただきたいと思います。